

授業評価結果に対する
教員のフィードバックに関する調査結果

東京工業大学 大学院 社会理工学研究科

平成20年度 前学期

平成21年4月

大学院 社会理工学研究科 評価委員会

1. 目的

平成20年度前学期授業に対する学生による授業評価のアンケート結果をもとに、教員が自分の授業をどのように自己点検し、授業の改善を図るかを検討することにより、今後の教育評価や改善方策の策定に役立てる。

2. 調査対象，調査方法

平成20年度前学期授業の評価に協力してもらった授業40科目に対して、担当教員に科目別の評価結果及び全体の傾向を知らせた際、その評価結果を見て、今後どのように授業改善を行うかを尋ねた。

調査の実施，集計，分析については，教育工学開発センターの協力を得た。調査票の配布，回収などの事務作業については大学院社会理工学研究科事務係にお世話いただいた。

3. 調査時期

調査期間は平成21年1月27日から平成21年2月10日までである。

4. 調査項目

学生アンケートの実施状況，調査結果に対する予想と評価結果の乖離，今後の授業に対する工夫，について質問を行った。

5. 調査分析結果

5.1 回答数

回答科目数は17で回答科目率は42.5%である。回答者の所属専攻別の回答数を表1に示す。

表1 回答数

専攻区分	回答科目数	調査対象科目数	回答科目率(%)
人間行動システム	5	9	55.6
価値システム	6	13	46.2
経営工学	4	8	50.0
社会工学	2	10	20.0
合計	17	40	42.5

注) ここでの調査対象科目数は，授業評価アンケートの回収があった科目数であり，教員のフィードバック調査を依頼した科目数である。

5.2 調査結果への予想

調査結果の予想と実際との違いについて、以下の質問を行った。

質問1. 別紙アンケート項目（1～16, a～C）についてお伺いします。結果は予想された範囲内でしたか、それとも予想外だったでしょうか。

(1) 自分が予想した範囲より評価が高かった項目（複数回答可）の番号を記入して下さい。

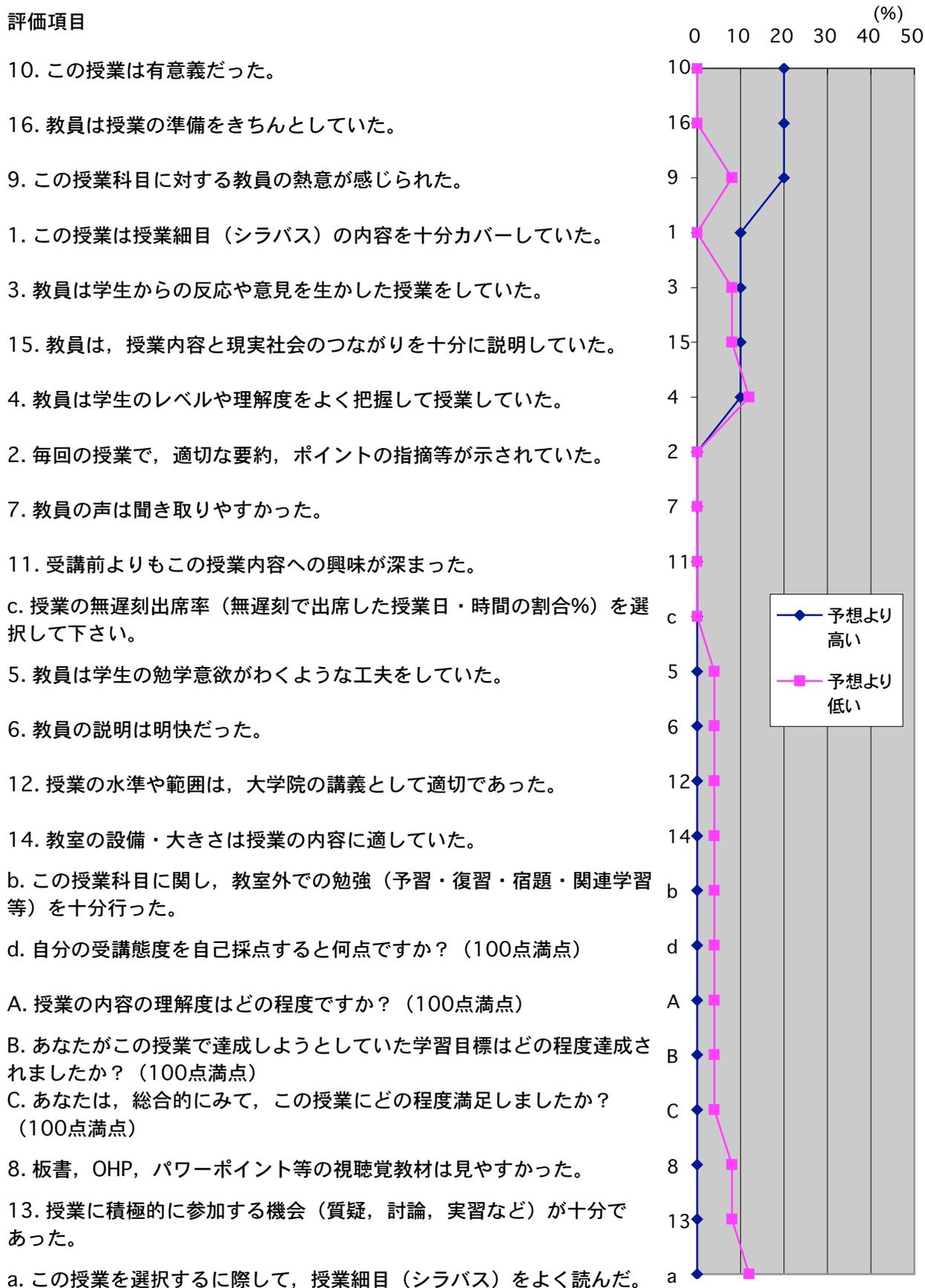
(2) 自分が予想した範囲より評価が低かった項目（複数回答可）の番号を記入して下さい。

学生による授業評価が教員の予想より高かった項目、予想より低かった項目を下記の表2及び図1に示す。尚、選んだ項目は複数回答であるため、回答数の割合で示してある。

表2 学生の授業評価と教員の予想

評価項目	予想より高い		予想より低い	
	頻度	割合(%)	頻度	割合(%)
10. この授業は有意義だった。	2	20.0	0	0.0
16. 教員は授業の準備をきちんとしていた。	2	20.0	0	0.0
9. この授業科目に対する教員の熱意が感じられた。	2	20.0	2	8.0
1. この授業は授業細目（シラバス）の内容を十分カバーしていた。	1	10.0	0	0.0
3. 教員は学生からの反応や意見を生かした授業をしていた。	1	10.0	2	8.0
15. 教員は、授業内容と現実社会のつながりを十分に説明していた。	1	10.0	2	8.0
4. 教員は学生のレベルや理解度をよく把握して授業していた。	1	10.0	3	12.0
2. 毎回の授業で、適切な要約、ポイントの指摘等が示されていた。	0	0.0	0	0.0
7. 教員の声は聞き取りやすかった。	0	0.0	0	0.0
11. 受講前よりもこの授業内容への興味が深まった。	0	0.0	0	0.0
c. 授業の無遅刻出席率（無遅刻で出席した授業日・時間の割合%）を選択して下さい。	0	0.0	0	0.0
5. 教員は学生の勉学意欲がわくような工夫をしていた。	0	0.0	1	4.0
6. 教員の説明は明快だった。	0	0.0	1	4.0
12. 授業の水準や範囲は、大学院の講義として適切であった。	0	0.0	1	4.0
14. 教室の設備・大きさは授業の内容に適していた。	0	0.0	1	4.0
b. この授業科目に関し、教室外での勉強（予習・復習・宿題・関連学習等）を十分行った。	0	0.0	1	4.0
d. 自分の受講態度を自己採点すると何点ですか？（100点満点）	0	0.0	1	4.0
A. 授業の内容の理解度はどの程度ですか？（100点満点）	0	0.0	1	4.0
B. あなたがこの授業で達成しようとしていた学習目標はどの程度達成されましたか？（100点満点）	0	0.0	1	4.0
C. あなたは、総合的にみて、この授業にどの程度満足しましたか？（100点満点）	0	0.0	1	4.0
8. 板書、OHP、パワーポイント等の視聴覚教材は見やすかった。	0	0.0	2	8.0
13. 授業に積極的に参加する機会（質疑、討論、実習など）が十分であった。	0	0.0	2	8.0
a. この授業を選択するに際して、授業細目（シラバス）をよく読んだ。	0	0.0	3	12.0
合計	10	100.0	25	100.0

（注：割合(%)は四捨五入によって小数第1位まで表示している）



5.3 教員が行った授業の工夫

教員が平成20年度前学期の授業でどのような工夫をしたかについて、以下のように尋ねた。なお、この質問への回答者数は16人である。

質問2a. 平成19年度の授業と比較して、平成20年度の授業では以下のことを意識的になさいましたか？ それぞれの項目について、該当する番号に○印をつけて下さい。

1. 意識しなかった。 2. いくらか意識した。 3. 大いに意識した。

教員が行った授業の工夫について図2に示す。また、その頻度分布を次の頁に示す（図3）。

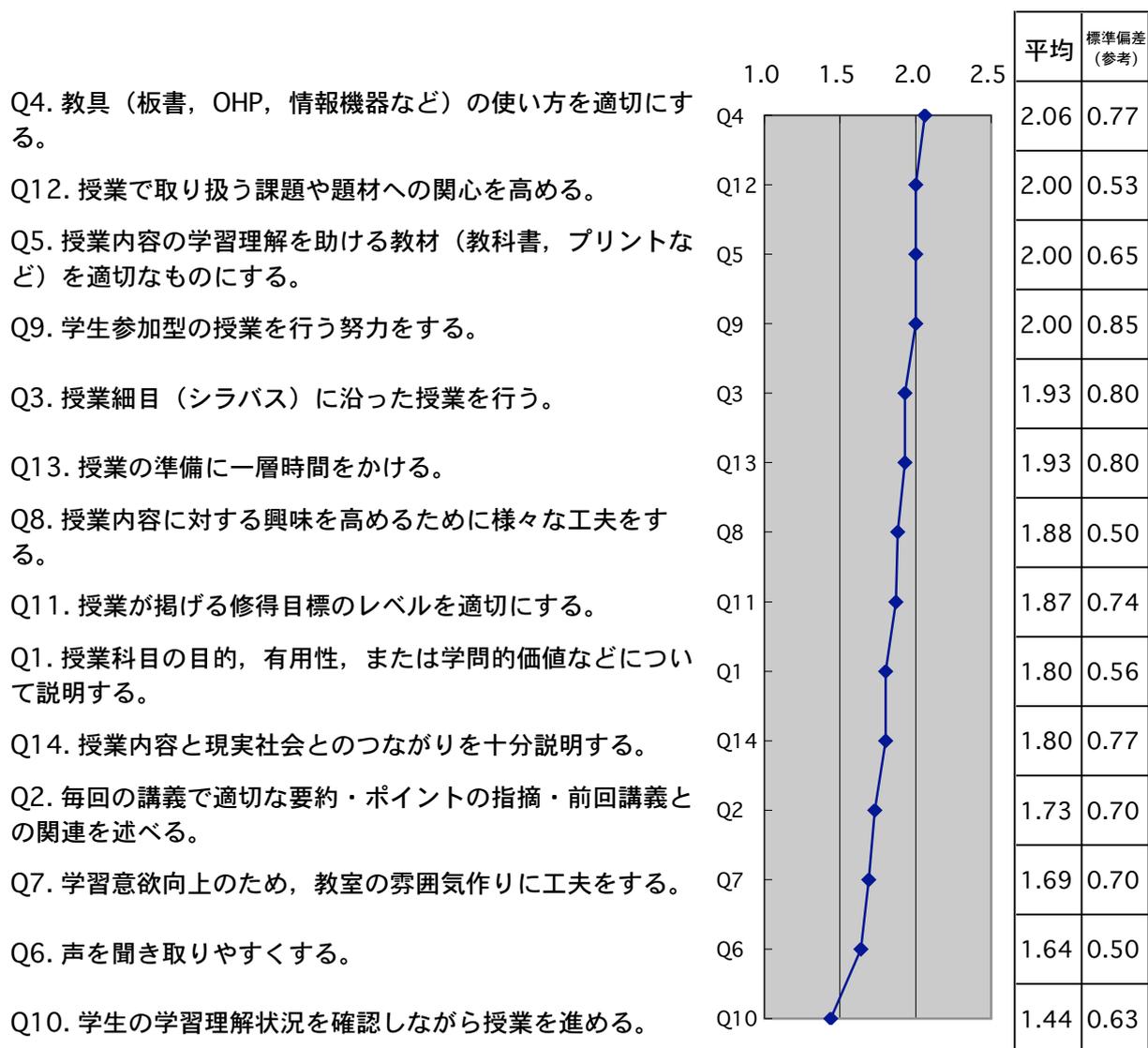
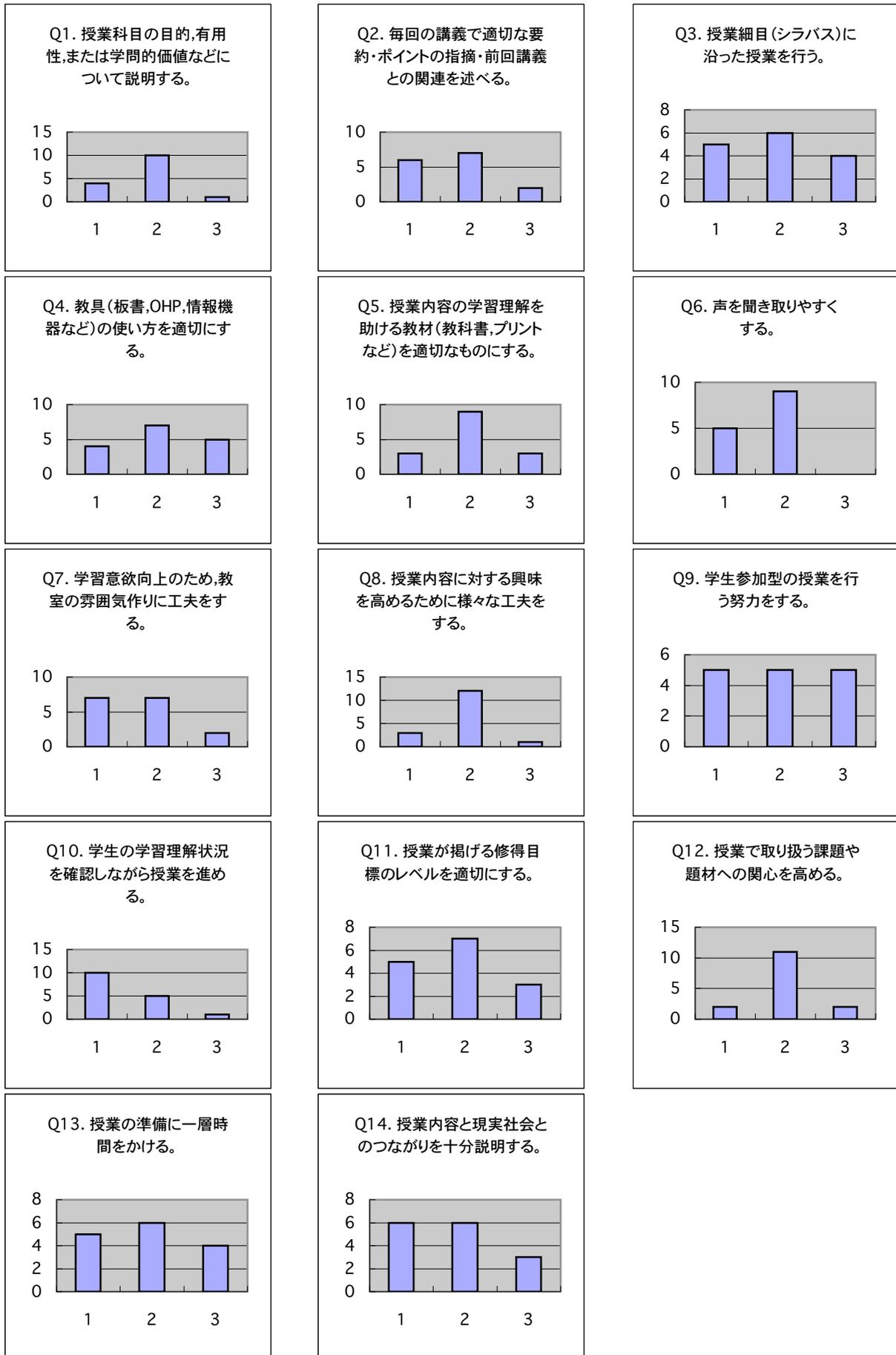


図2 教員が行った授業の工夫

図3 教員が行った授業の工夫（頻度分布）



5.4 教員の今後の授業の工夫

評価結果を見て、今後の授業をどのように工夫するかについて、以下のように尋ねた。尚、この質問への回答者数は17人である。

質問2b. 本評価結果をご覧になって、「今後の授業においてどのような工夫を検討されるか」をお伺い致します。それぞれの項目について、該当する番号に○印をつけて下さい。

1. 現状でよい。 2. いくらか工夫する。 3. 大いに工夫する。

教員が検討している授業の工夫について図4に示す。また、その頻度分布を次の頁に示す（図5）。

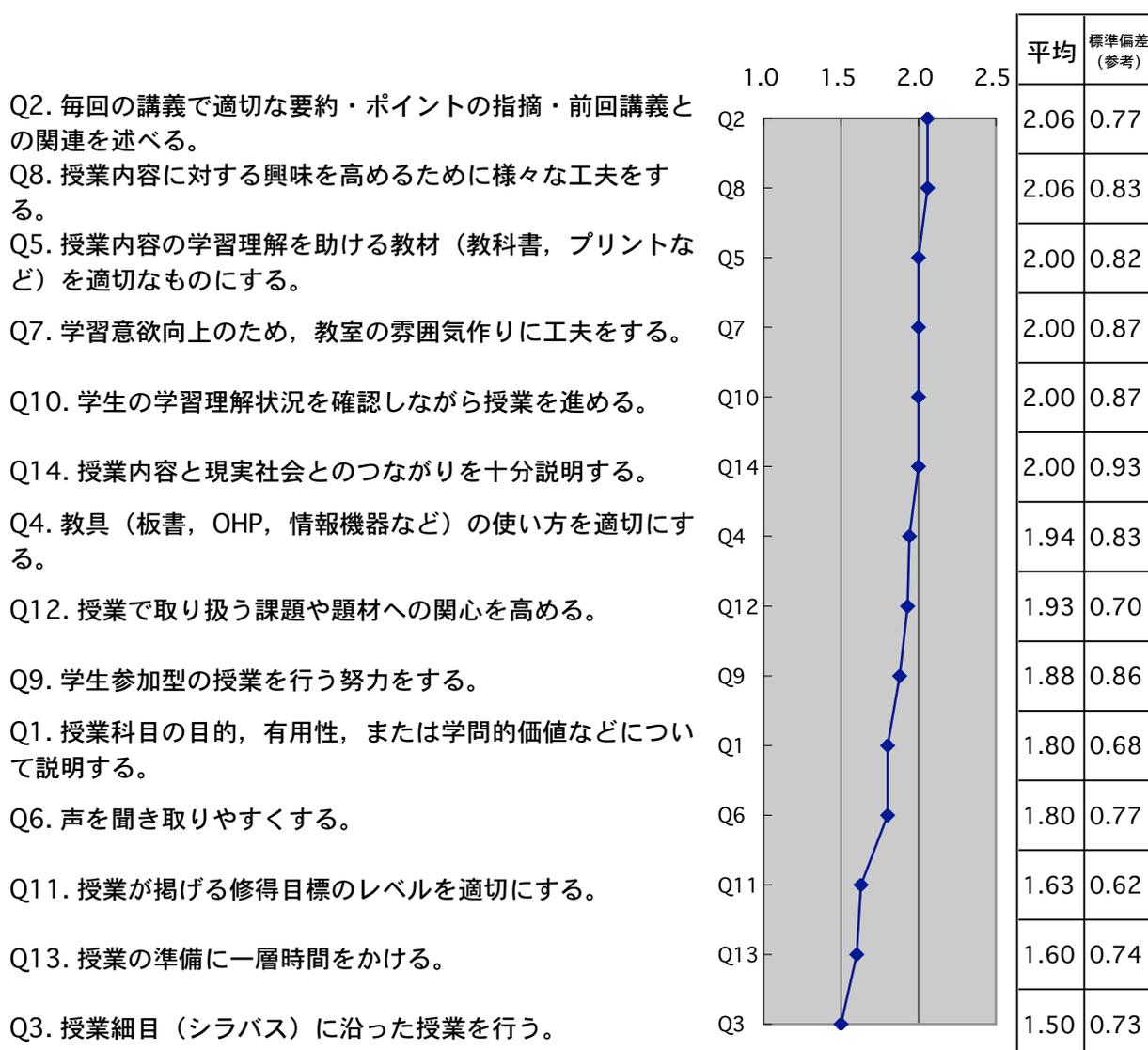
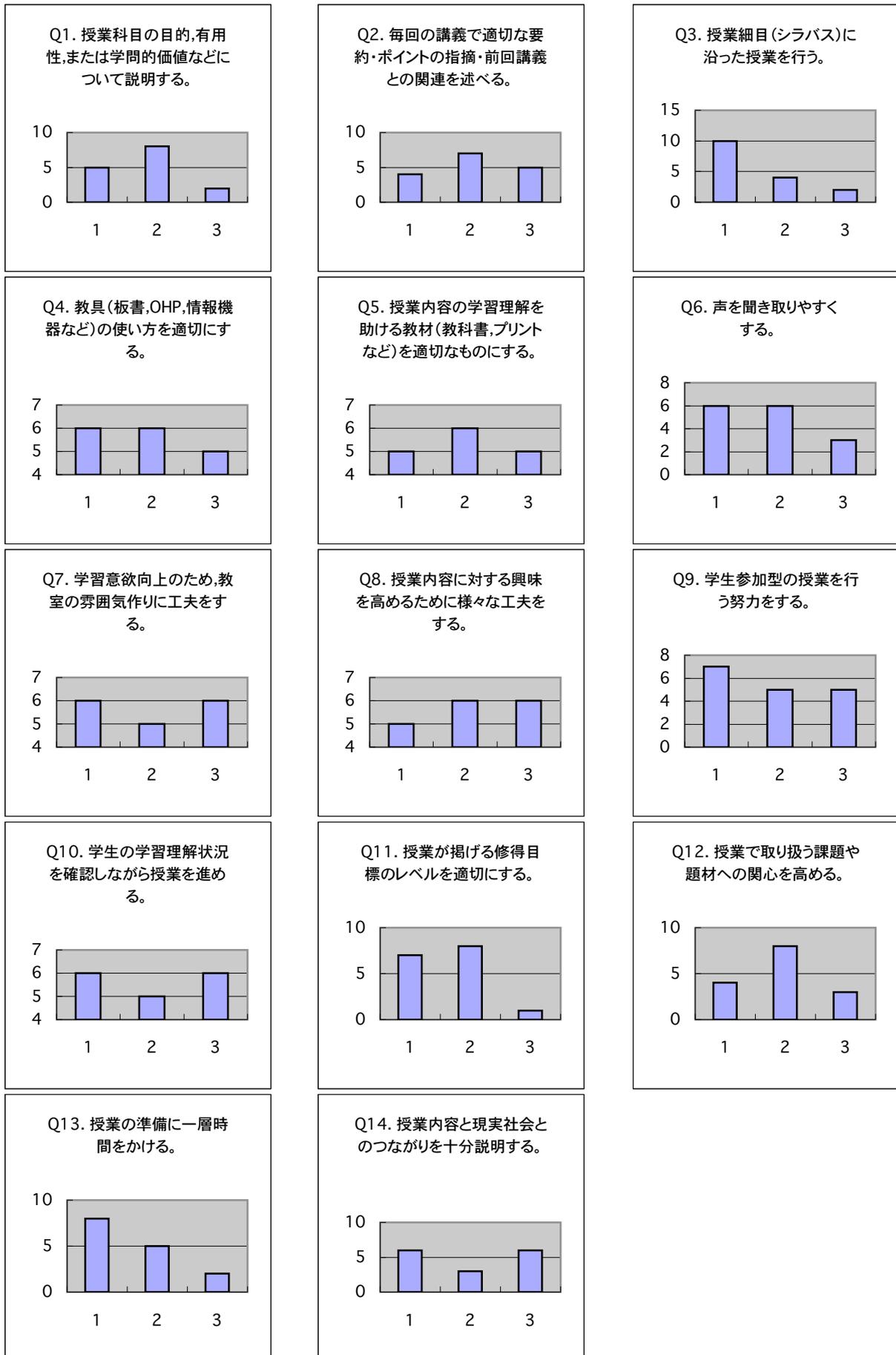


図4 今後の授業の工夫

図5 今後の授業の工夫（頻度分布）



5.5 授業評価の有効性について

授業評価結果を各教員にフィードバックしたり，評価報告書を作成したりする授業改善のための活動がどの程度役に立っているかを尋ねた。この質問への回答者数は17人である。

問題3. 以下それぞれの項目について，該当する番号に○印をつけて下さい。

1. 全くそう思わない。 2. あまりそう思わない。 3. いくらかそう思う。
4. かなりそう思う。 5. 非常にそう思う。

各質問項目に対する5段階評価の回答の平均値を図6に，頻度分布の割合(%)を図7に示す。

Q1. 授業評価結果はだいたい予想通りだった。

Q2. 授業評価結果は役に立った。

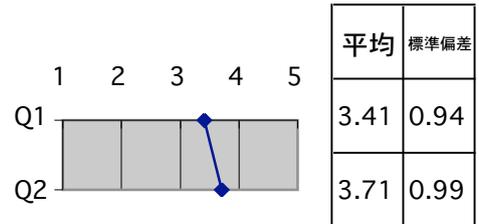
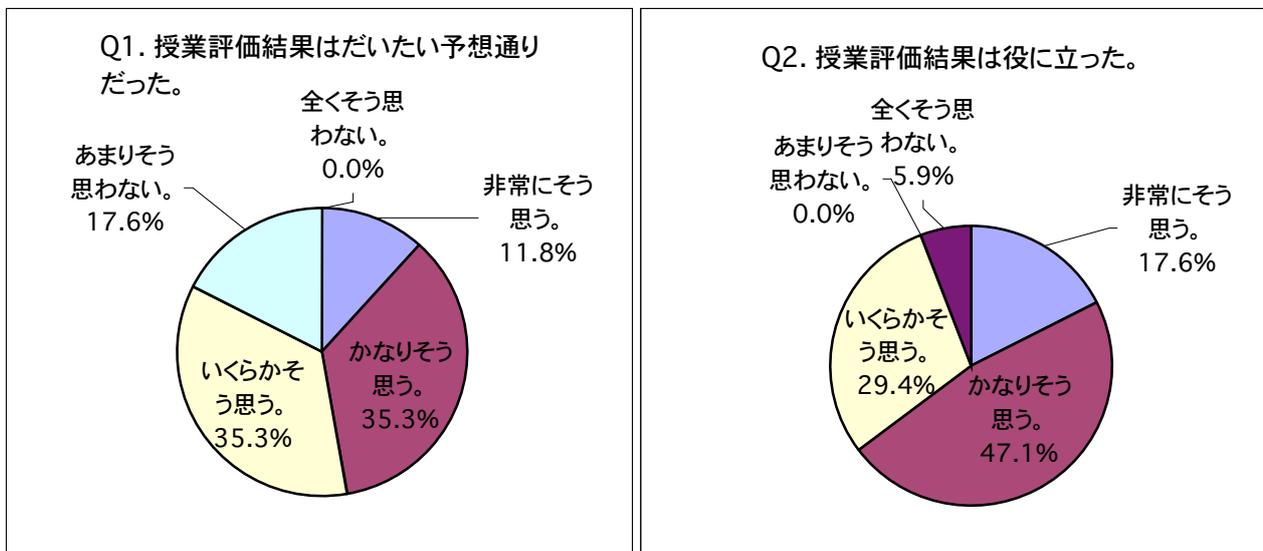


図6

図7 授業評価の有効性



「Q1. 授業評価結果はだいたい予想通りだった。」の質問に対して，「非常に予想通りだった」と答えた教員は回答者の11.8%，「かなり予想通りだった」は35.3%，「幾らか予想通り」は35.3%である。「あまり予想通りでなかった」は17.6%，「全く予想外だった」は0.0%である。「予想通り」の方に答えた教員は，回答者の約82.4%，「予想外」の方は約17.6%である。

「Q2. 授業評価結果は役に立った。」の質問に対して，「非常に役に立った」と答えた教員は，回答者の17.6%，「かなり役に立った」は47.1%，「幾らか役に立った」は29.4%，「あまり役立たなかった」は0.0%，「全く役立たなかった」は5.9%である。この結果より，フィードバックに回答した教員の約94.1%が授業評価が役に立ったと答えている。

以上の結果より，フィードバック調査に回答した教員の約82.4%がだいたい予想通りの評価結果を得ており，約94.1%が「授業評価結果は役に立った」と回答している。

さらに、「授業評価は役立った」と答えた教員に対して、評価が予想範囲内であったかどうかについて、また、「授業評価は役立たなかった」と答えた教員に対して、評価が予想範囲内であったかどうかについて、表にまとめて表示した（回答者数17人）。

	評価は予想範囲内	評価は予想範囲外	横計
授業評価は役立った	14	2	16
授業評価は役立たなかった	0	1	1
縦計	14	3	17

以上より、「授業評価は役立った」と回答した教員のほとんどが「評価は予想範囲内」であったことがわかる。

6. 教員自由記述

これはアンケート調査での自由回答欄に記入された意見を分類し、まとめた（回答数9）。教員から貴重な意見が寄せられたが、多様な意見を取捨選択することなく、できるだけ元のままで記載するように努めた。但し、分類上、一つの文章を幾つかに分ける場合もある。ほとんど同じ内容のものは文末の（ ）内に類似回答数を示し、重複をさける。

・専攻全体の授業評価をまとめる時、データを単純に集計する（回収したアンケート数をデータの母数とする）方法と、各授業ごとに平均を出し、さらにその平均をとる（授業を1サンプルとする）方法との両方を集計すべきだと思う。

大学院では、授業によって履修者数のバラツキが多く、大人数の授業の影響が専攻全体を代表するのは必ずしも適切でない。特定の(1人)学生が他の学生と全く異なる反応をしている場合、どこまでそれに配慮すべきかは微妙。それによって、他の学生の満足度が下がることもある。

- ・高い評価をしてもらい、ありがたく思っています。
- ・もう少し具体的な質問にいただかないと改善しづらい。例えば、Q4の教員は学生のレベルや...ですが、レベルを上げるべきか、下げるべきか、わかりません。
- ・資料の基本的な理解力を必要とするので、講義の内容に関心のない方は他のより関心に適した講義を選択することもよいと思う。
- ・Q3,9,15に対する評価が低かったので改善したい。
- ・3回目であり、概ね調査として安定してきた印象を受ける。願わくば、このフィードバック結果や詳細報告の時期を早め（前期末か後期開始早々）にして頂けると、臨場感を持って受けとめやすいので、スピードアップを図って頂けると幸いです。経年データが蓄積されてきているので、当該授業並びに研究科の平均値（項目別）について、時系列変化が一目で分かる整理がされていると、より活用しやすい。
- ・シラバスの周知を行いたい。
- ・今年度初年度のため、次年度も同様のテキスト、教材を利用して演習での議論の内容を8つ深めたいと考えています。
- ・評価項目別に対前年との比較をしてほしい。